



こどもの城

KODOMO NO SHIRO

未来を生きる 子どもたちのために

〔こどもの城〕は1979年(昭和54年)の国際児童年を記念して、厚生省(当時)が計画・建設したもので、1985年(昭和60年)11月1日に開館。毎年、約100万人の人たちに利用されています。芸術・科学・体育・保健・保育など、子どもの文化と福祉のためのさまざまな施設が整えられた国立の総合児童センターで、数々の実践をとおして、次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長していくことをめざして活動しています。常に先駆的で実験的なプログラムの開発を心がけ、全国に普及していくこと、そして国際的な視野に立って世界各地の子どもたちと交流をはかることを運営の基本にしています。

また、子どもたちだけでなく、子どもを取り巻く大人や福祉関係者を視野に入れて、子育て支援や次世代育成活動に積極的に取り組むほか、児童の健全育成のための研究・研修活動も活発に展開しています。

〔こどもの城〕は、新生児から高校生までの全児童を対象に、遊びをとおしてさまざまな出会いや発見ができるように、毎日さまざまな活動を行っています。その活動を担うのが体育、プレイ、造形、音楽、AV(オーディオ・ビジュアル)の専門スタッフ。それぞれの専門性を生かした“遊びのプログラム”の企画・開発・実施に努めています。

また、保育研究開発、小児保健、企画研修、広報部門のほか、青山劇場と青山円形劇場の運営を担当する劇場部門があり、相互に連携・協力しながら活動、総合施設としての機能を生かした活動をめざしています。

〔こどもの城〕は、(1)一般来館児・者を対象とした活動 (2)保育所・幼稚園・小学校などの団体を対象としたグループ活動 (3)講座・クラブ活動——の3つを柱に事業を行っています。

これらの実践的な活動で得られたノウハウは、〈動くこどもの城〉などをとおして全国の児童館・児童センターへ伝えられていきます。さらに、児童厚生員等を対象とした研修会・講習会を開催するなど情報交換や交流にも努めています。

〔こどもの城〕の活動の柱は3つ

一般来館児・者を対象にした活動

「こども活動エリア」では、〔こどもの城〕に遊びに来た子どもや家族が楽しく参加・体験できる“遊びのプログラム”をたくさん用意しています。〈あそび〉をとおして、出会いと発見、そして仲間作りができるように工夫されたプログラムで、〔こどもの城〕は初めてという人も自然に〈あそび〉の輪の中に入って楽しめるようになっています。ボランティアの協力も得て、人と人とのふれあいを大切にしたいプログラムを心がけています。

平常期間——土・日曜日、祝日には、多くの来館児・者に対応できるように、プログラムの内容などを工夫しています。土・日曜日は学校週5日制に対応して小・中学生向けプログラム、平日は幼児を連れてきた親子が多いことから“子育て支援”の視点に立った親子で楽しむプログラムを中心に活動を展開しています。

特別期間——学校の季節休み（春休み・夏休み・冬休み）の期間と児童福祉週間（ゴールデンウィーク）を特別期間として、開館時間を午前10時にして、各部門が協力してたくさんの人が参加できる大型の季節行事や催しを行っています。

グループ活動

保育所、幼稚園、小学校、ハンディキャップを持った子どもたちのグループなどを対象に、平日の午前中に行う活動です。一般来館児・者活動や講座・クラブ活動の経験をもとに、〔こどもの城〕ならではのプログラムを開発し、積極的に受け入れをしています。

劇遊び「忍者修行道場」（プレイ）、めずらし楽器大集合（音楽）、かげをうつそう（造形）、すてきな新体操（体育）、みんなでつくろう～ぱたぱたアニメ（AV）など、約40のプログラムがあります。

講座・クラブ活動

平日を中心に、〔こどもの城〕の整った施設・設備を利用した講座・クラブの活動が行われています。

（1）幼児と親と一緒に受講して親子のコミュニケーションをはかりながら運動や音楽に親しんでもらうもの （2）就学前の幼児を対象に楽しく遊びながら情操を育て、体力を養い、仲間作りの輪を広げていくもの （3）小学生から高校生までを対象に〔こどもの城〕ならではのユニークな内容のもの （4）高校生から一般成人を対象とする健康作りや福祉関係のもの——50種類を超える講座・クラブがあります。

春休みや夏休み特別期間の短期集中コースのほか、専門指導者向けのセミナー・講習会なども行っています。

目次

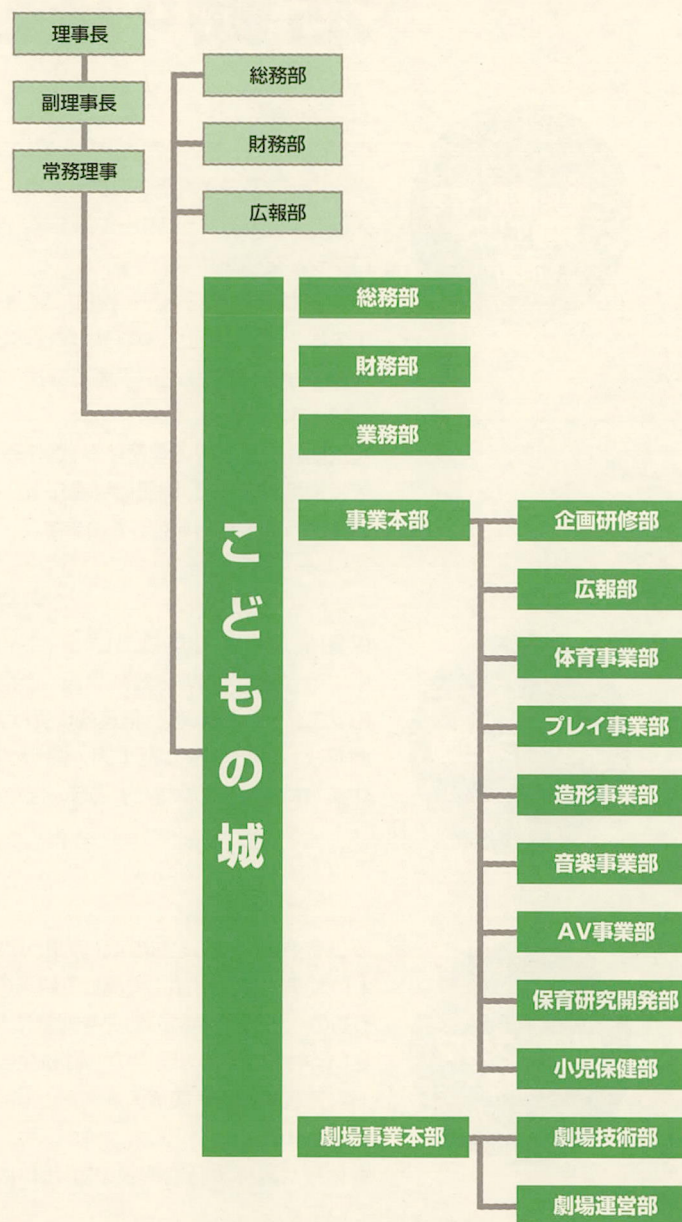
CONTENTS

未来を生きる子どもたちのために	2
〔こどもの城〕の活動の柱は3つ	3
〔こどもの城〕の組織図	4
〔こどもの城〕の施設	5

事業部門ごとの活動内容

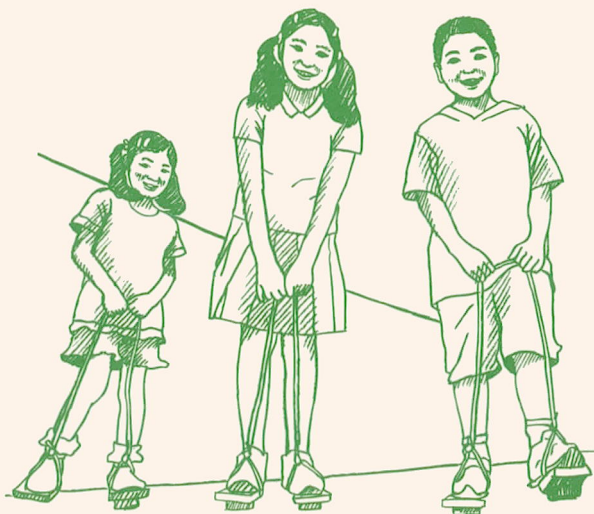
体育	6
プレイ	8
造形	10
音楽	12
AV	14
保育	16
小児保健	18
企画研修	20
広報	20
劇場	22
総合案内	22
利用者サービス	23

〔こどもの城〕の組織図



〔こどもの城〕の施設

			オフィス	13F 12F 11F	
			パソコンルーム	10F	
			研修室	9F 8F	
			ホテル	7F 6F	
5F	屋上遊園 プレイボート		小児保健クリニック 保育室	5F	ふしぎが丘
4F	ビデオライブラリー		音楽ロビー A・Bスタジオ	4F	
3F	造形スタジオ 青山円形劇場		プレイホール コンピュータプレイルーム	3F	
2F	ギャラリー	屋外 通路	ファミリーラウンジ	2F	青山劇場
1F	アトリウム(こども活動エリア入口) 売店		エントランスホール レストラン	1F	
B1	プール観覧室		フリーホール	B1	
B2	体育室／プール／健康開発室		駐車場	B2	
			駐車場	B3 B4	



施設概要

所在地	東京都渋谷区神宮前5丁目53番1号
建築主	厚生労働省(当時:厚生省)
敷地面積	9,923m ²
建築面積	6,001m ²
延床面積	41,699m ²
階数	地下4階・地上13階・塔屋1階
主要構造	高層部 鉄骨造り 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り 地下 鉄筋コンクリート造り
着工	昭和56年11月
完成	昭和60年9月(11月1日開館)
運営	(財)児童育成協会



体育

土・日曜日、祝日はスポーツ遊び
平日は各種講座・クラブを開講

鬼ごっこなど、体を動かす遊びの中にはスポーツ的な要素がたくさんあります。この点に注目して遊びの楽しさをスポーツの楽しさへとつなげていきます。

幼児から小学生にかけては、運動への興味・関心がいちばん高まるころなので、いろいろなスポーツを体験して身体活動の楽しさを知るには最適の時期。自ら運動することによって身のこなしを覚え、すばやく、たくましい動きを身につけることが、日常生活の中での活動領域を広げ、積極性をはぐくんでいきます。健康な生活への基礎が作られます。

土・日曜日、祝日と学校の季節休みには、体育室・プール・健康開発室を一般来館児・者に開放。体育室ではドッジボールやフライングディスクなどのスポーツ遊び、プールでは水泳を自由に楽しめます。健康開発室では、体力測定の結果を年齢・性別の全国平均と比較することができます。

講座・クラブは主に平日に開講しています。親子で参加するもの、幼児・小学生・中学生・高校生を対象とするもの、おとなを対象とするものまで、さまざまなコースがあります。

子どもの興味・関心を受けとめ 体を動かすことの楽しさ伝える

遊びからスポーツへ——子どもたちの興味・関心を受けとめ、体を動かすことの楽しさを伝えることをめざしています。運動技能の向上だけでなく、運動することのすばらしさやおもしろさを体験できるようにプログラムを工夫しています。

地下2階が体育活動のフロア 体育室、プールなどがあります

体育部門の活動は、主に地下2階の体育のフロアで行われています。床面積336㎡の体育室、25m×10mのプール、体力測定ができる健康開発室、各種トレーニング機器を備えたトレーニングジムがあり、平日は講座・クラブ、土・日曜日、祝日や学校の季節休みには、〔こどもの城〕に遊びに来る子どもたちを対象にスポーツ遊びのプログラムを行っています。



体を動かす楽しさ 知ってほしい



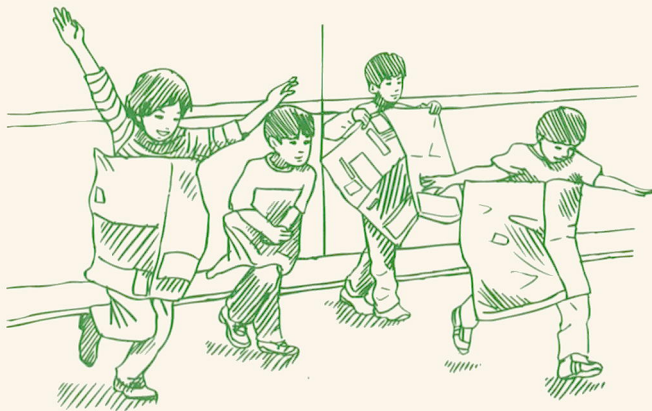
体を動かすことの楽しさを知ってもらおうと、スポーツ遊びのプログラムを行っています。いろいろな角度からスポーツを考え、スポーツの楽しさを知ってもらおうというものです。

心肺の働きや体が動く仕組みからアプローチした「みんなのからだは芸術品」、遊びの中のスポーツの要素に注目した「おにごっこはスポーツの原点だ」「伝承遊びとスポーツ」、体を動かすことの楽しさやおもしろさを伝える「汗はすばらしい友だち」「みがけ!みんなの運動センス」——さまざまなテーマで、スポーツ遊びを取り上げています。

鬼ごっこは、 スポーツの原点



遊びとスポーツは、密接なつながりがあります。例えば、鬼ごっこ。鬼から逃げたり、追いかけたりします。子どもたちは、ただ走って逃げる（追いかける）だけでなく、急に方向を変えたり、体を反らしたりしてつかまらないようになっています。ボールを持った人を「鬼」と考えると、ラグビー、サッカー、バスケットボールなどの球技と似ているのが分かります。鬼ごっこからいろいろな球技へ——遊びからスポーツへと、プログラムを工夫しています。



“遊び”感覚を もたせたプログラム



体育室のスポーツ遊びに集まるのは、幼児から小・中学生。年齢・性別、体の大きさや運動する能力も違います。スタッフは子どもたちのようすをみながら、準備運動からスポーツ遊び、そしてスポーツへと進めていきます。じゃんけんに負けた人は向こうの壁を触って戻ってくる——など、いろいろなところに“遊び”があります。

ゲームの時間は、体力差もあるので年齢別にグループ分けしています。ゲームの内容もルールも異なります。例えばドッジボール。幼児の場合、ボールを投げけるのではなく、ころがして遊んだりします。当たったらアウトというのは共通ですが、運動能力を考慮したアレンジです。



お父さんも積極的に



親子（幼児）、子ども（幼児・小学生・中学生・高校生）、一般成人や妊婦まで、幅広い年齢層を対象に水泳や体操の講座・クラブを開講しています。

「幼児・母親水泳」という名称で始まった講座は、積極的に育児参加をする父親が増えてきたことをうけて、「親子水泳」に名称を変えました。土曜日のコースでは、たくさんのお父さんが子どもと水泳を楽しんでいます。

プレイ

“遊びのコミュニティー”で仲間作り 遊びの道具として積極的にパソコンを利用

プレイホールは、さまざまなプログラム活動やイベントが行われる「集いの広場」を中心に、性格の異なる小スペース（幼児や高学年のコーナーなど）や固定遊具（大型アスレチック「わくわくらんど」など）を配置し、全体として子どもの“遊びのコミュニティー”を形成。初めて出会った子どもたちが、遊びながら仲間作りをしやすい環境になっています。

遊具によって遊びのきっかけが作られ、さまざまなプログラムが体験の幅を広げてくれます。そこに人が介在することで、子どもたちの人間関係作りへと発展していきます。遊具やプログラムとともに、スタッフやボランティアリーダーという“人”の役割が大切です。安全面に気を配りながら、子どもたちの楽しい遊びをサポート。自分の力を発揮する喜びや、互いを思いやることの大切さなどを、仲間遊びをとおして自然に身につけていけるように配慮しています。

パソコン遊びのプログラムも行っています。パソコンという多彩な機能を持った“道具”をクラフト遊びや、表現する“遊具”として積極的に活用。科学遊びを行う「サタデーラボトリー」では、“なぜ”や“不思議”という気持ちを大切に、さまざまなプログラムを行っています。



“発達”や“種類”を考慮しながら 子どもに適したく遊びの空間作り

子どもたちのだれもが“遊ばされる”のではなく、自らが意欲的に遊びに参加し、自分の知恵と力で楽しさを広げていくことが何より大切です。発達年齢や遊びの種類を考慮したく遊びの空間を作り、豊かな遊びが展開できるようにしています。

プレイホール、パソコンルームなど さまざまなスペースで活動

プレイ部門の活動は、3階のプレイホール（わくわくらんどほか）とコンピュータプレイルーム、10階のパソコンルーム、そして屋上（ふし지가丘、ネット広場、屋上遊園、プレイポート）を中心に展開されています。それぞれのエリアのく遊びの空間作りを基本に、定例の小イベントや季節行事・特別行事、講座、〔こどもの城〕の外で行う野外活動などを行っています。



自分たちで活動内容を考える“遊びのクラブ”



「ユースクラブ」(小5～中3)は、自分たちで話し合いながら活動内容を考える“遊びのクラブ”。10代前半の心の成長期に、集団での活動をとおりて人間形成をはかることが目的。いろいろな遊びにチャレンジしよう、仲間と一緒に遊びを楽しもう、自分たちの夢を実現しよう——の3つを目標に、「多数決ではなく、メンバー全員が納得できる活動しよう!」という不文律のもとで活動しています。毎月2回、日曜日の午後集まり、近くの公園で思いっきり体を動かして遊んだり、クラフトやクッキングを楽しんだり、“街”の観察に出かけたり——みんなで相談し、さまざまなことに挑戦しています。

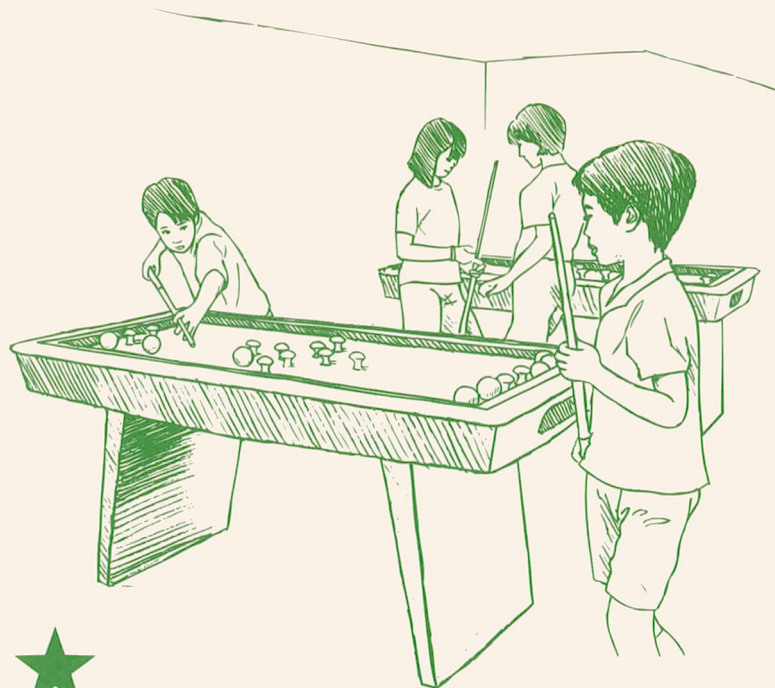
小1～小4を対象にした「キッズクラブ」もあります。



クラフト遊びなどにパソコンの機能を生かす



小物入れ(箱)、紙飛行機、紙相撲など——ペーパークラフト遊びにパソコンを利用しています。紙相撲では、頭、腕、胴体、腰、脚の各部分のパーツ(力士ふう、ロボットふうなど、いろいろなタイプのを準備)の画像データを用意しておき、それらをパソコン上で自由に組み合わせる力士を作り、着色。プリントアウトして厚手の紙にはり、切り抜いて力士を作り、紙相撲で遊べます。グラフィックスソフトを応用したもので、パソコンを遊びの“道具・手段”として利用しています。



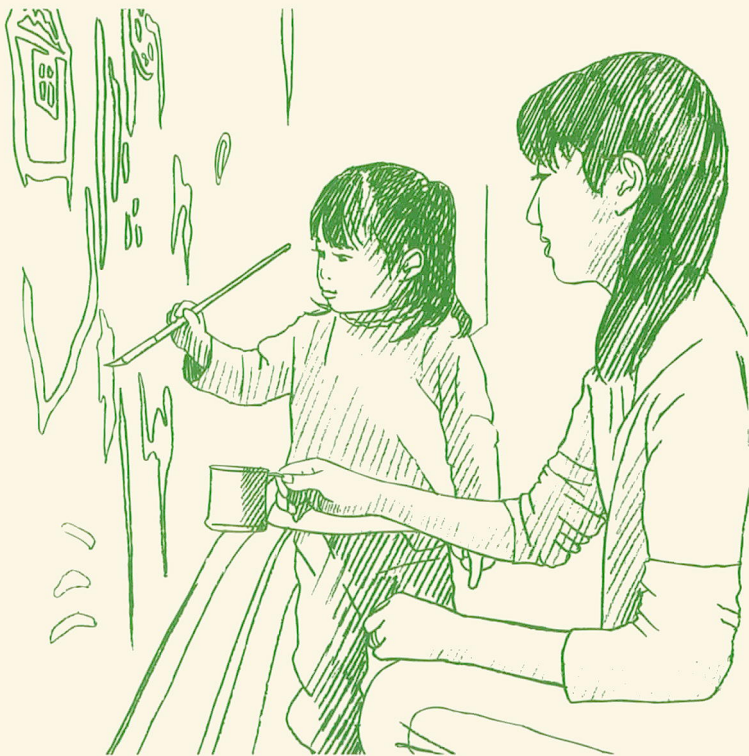
人と人が自然にふれあい・交流——高学年コーナー

「高学年コーナー」(小4以上)には、ビリヤードに似たバンパーやボウリングなどの室内ゲームが置いてあります。ルールが簡単で複数の人間で楽しめ、始めてみると熱中してしまうようなゲームです。だから、初めて出会った人とまず一緒に遊ぶことができます。人と人のふれあい・交流が自然にできるような“遊びの環境”になっています。バンパーの人気は高く、年2回大会を開いて熱戦を繰り広げています。

児童文化財を題材にした活動を定期的実施



“遊びのコミュニティー”の核となる「集いの広場」では、スタッフやボランティアによる紙芝居や人形劇・パネルシアター・折り紙などの児童文化財を題材にした活動を毎週決まった曜日・時間に実施しています。「みんなのここにご広場」「おりがみあそび広場」など、人と人とのぬくもりを感じることができるように運営しています。昔から子どもたちに親しまれてきた遊びを中心に、親子で一緒に遊べるものを取り上げています。



造形

感性を刺激し、“つくる”意欲を引き出す
五感を自在に使って遊べるプログラムを工夫

造形活動には、形や色彩から何かを感じとる力、バランス感覚、対象を触ったときの感覚、物の運動に対する感じ、点や線あるいは平面から立体への発想、量を捉える感覚、また聴覚や味覚などの領域におよぶ感覚など、対象そのものが持つ特性から、それを受け取る側（人）の感覚・概念に至るまで、さまざまな要素があります。子どもたちは無意識のうちに、このようなものを感じ取ります。

「ワークショップ」では、子どもたちが自らの五感を自在に使って遊べるように、プログラムを工夫しています。〈展示＝みる〉〈体験＝さわる〉で子どもたちの感性を刺激し、造形してみたいという意欲をかきたてて、〈制作＝つくる〉へと自然にすすめるようにしています。造形という表現のプロセスを大切にしたいと考えるからです。

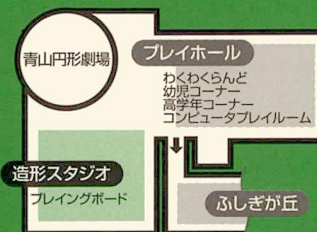
「ワークショップ」には、大きく分けて3つのテーマがあります。子どもの造形体験を素材＝材料の側面から行う『素材との出会い展』、造形の隣接領域＝音楽・科学などの側面から行う『造形発見展』、素材・道具・技法と表現との関係を体験する『オープンスタジオ』です。

〈展示〉〈体験〉〈制作〉—— ワークショップ基本に活動を展開

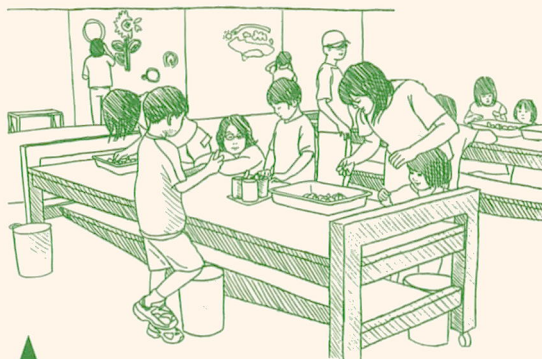
子どもたちの感じる力＝感性を大切に伸ばしていきたいと考え、〈展示＝みる〉〈体験＝さわる〉〈制作＝つくる〉の3つの要素で構成する「ワークショップ」を基本に活動。造形（表現）活動のプロセスを大切にしながら、講座「こどもクリエイティブクラブ」も開講しています。

全体が大きなフリースペース 長さ17mの“プレイングボード”

造形部門は、3階の造形スタジオを中心に活動しています。全体が大きなフリースペースで、親子で作るコーナー、子どもだけで作るコーナー、クリエイティブクラブ（講座）のコーナーなど、自由にレイアウトして使うことができます。北側の壁面には長さ17mの大きな白い壁“プレイングボード”があり、自由に大きな絵が描けます。この壁は水で洗い流せるようになっています。



3F



自由に大きな絵が描ける 「プレイングボード」★

「プレイングボード」は、横17mの大きな白い壁。のびのびと大きな絵を描いてもらおうと作られたものです。使っている筆はちょっと太めで、たっぷりの絵の具を含ませて描けるので、自然と大きな絵になります。ボードの表面はほうろう仕上げなので、水性絵の具で描いた絵はかんたんに洗い流すことができます。



“素材”からアプローチする 「素材との出会い展」

素材＝材料は、子どもの造形活動には欠かせない要素です。「素材との出会い展」では、素材そのものを考えるところからプログラムが始まります。

〈木〉という素材を選んだ場合には、改めて「木とはどんなものか」と見直すことから始まり、人間と樹木との共生関係へとイメージを広げていきます。葉がついたままの枝や幹も、のこぎりなどの道具を使って加工すると、素材としての姿を現します。自然の中の木から造形素材としての木になるわけです。子どもたちは、形、色、手触り、かたさ、においなど素材についてさまざまな思いをめぐらせ、造形的な関心を高めていきます。

今までに「紙と造形」「木と造形」「土と造形」などを実施しています。

音、光などを テーマに『造形発見展』★

造形遊びというと、“かたち”のあるものだけが対象と思いますが、形のない空気（風）、音、光なども視点を変えてみると、造形遊びの対象になります。例えば“光”。ビルに反射する太陽の光、木漏れ日、日陰と日なた、ウィンドウを飾る照明——いろいろな表情の“光”を造形遊びに結びつけて考えるのが『造形発見展』です。映画、影絵、鏡なども“光”に関係したものです。「音と造形」「光と造形」などを実施しています。



親子で作るコーナーと 子どもだけで作るコーナー

「親子コーナー」は、はさみが持てて、スタッフの話を理解できる3歳くらいからの子どもと保護者を主な対象としています。「子どもだけで作るコーナー」は、小学生以上の子ども（プログラムによって対象学年が変わります）だけで造形活動に取り組む場所。同じくらい年齢の子どもたちが作業台を囲んで、それぞれのイメージを“かたち”にしていきます。仲間がいるということは、とても心強いこと。刺激しあって、造形活動の質も高まっていきます。

「こどもクリエイティブクラブ」（火～土曜日）のコーナーもあります。講座形式のプログラム。一つのテーマのもと、さまざまな視点からじっくりと造形活動に取り組みます。

音楽

感動させる“何か”を共有したい 毎日、親子で楽しめる音楽遊び

世界中のいろいろな所に、いろいろな音楽があり、たくさんの方がいろいろな形で音楽を楽しんでいます。人を感動させる“何か”が音楽の中にあるからです。その“何か”を、子どもたちと一緒に楽しく体験しようというのが音楽部門の活動です。

一般来館児・者を対象にした活動は、音楽ロビーが中心。日曜日や祝日などにはBスタジオも使っています。親子（幼児）連れの多い平日は、手遊び、リトミック、音楽遊びなど、親子が一緒になって楽しめる“子育て支援”“家族ぐるみ”を基本とした活動。日替わりで行っているさまざまな音楽遊びは、音楽体験への導入的な活動になっています。

講座は親子（幼児）で参加するものから、高校生・成人を対象にするコースまでさまざま。和太鼓や三味線などの邦楽、インドネシアの民族音楽ガムランやブラジルのサンバなどのユニークなコースもあります。

また、「こどもの城児童合唱団」は、夏の合宿を兼ねて各地で交流コンサートを行うなど、「こどもの城」と全国の子どもたちを結ぶ活動にも力を入れています。

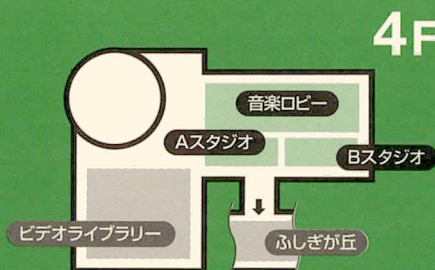


いろいろな“音楽”に出会う場 楽しさ、すばらしさをみつけて

音楽部門の活動は、音楽と出会い・体験することで、音楽の楽しさ、すばらしさを発見し、子どもたちが創造性を豊かにしていく手助けをすること。のびのびと自分を表現し、いろいろな楽器や音楽と出会う楽しい場になるような環境作りをしています。

音楽ロビーで一般来館児・者活動 講座は2つのスタジオを使って実施

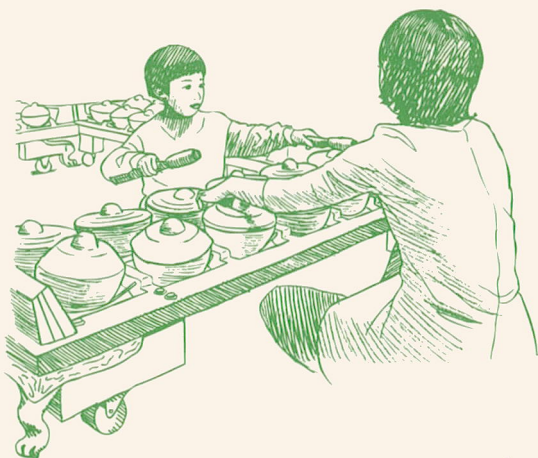
音楽部門の活動は、4階の音楽ロビーとA・Bスタジオが中心。音楽ロビーでは、毎日多彩な一般来館児・者活動を展開しています。Aスタジオは板張りの床の音楽専用スタジオで、主に講座に使用しています。Bスタジオは多目的スタジオ。音楽部門とAV部門で共用し、ミニコンサート、講座、映画やビデオの上映会やワークショップなど、多目的に利用されています。



演奏を聞く、楽器にふれる ——さまざまに音楽を楽しむ

音楽ロビーでは、聞いて楽しむこと（鑑賞）と、楽器にふれて音を出してみること（体験）を合体させた、参加型のミニコンサート——世界各地の楽器を紹介するもの、テーマ（形や材質、管・弦・打楽器など）を決めているいろいろな楽器を紹介するものなど——を行っています。

私たちはたくさんの“音”を耳にしていますが、実際に楽器を演奏しているのを見る（聞く）機会は多くありません。それも、アジア（インドネシアや中国など）やアフリカなど、世界各地の楽器となると……。楽器の形や材質、どんな音がするのか、どうやって音を出すのかなど、興味はつきません。スタッフの演奏を聞いてから、実際に楽器にふれて音を出してみます。自分が出した“音”は特別な響きをもって聞こえるはず。



日曜日、祝日には 「わいわいスタジオ」

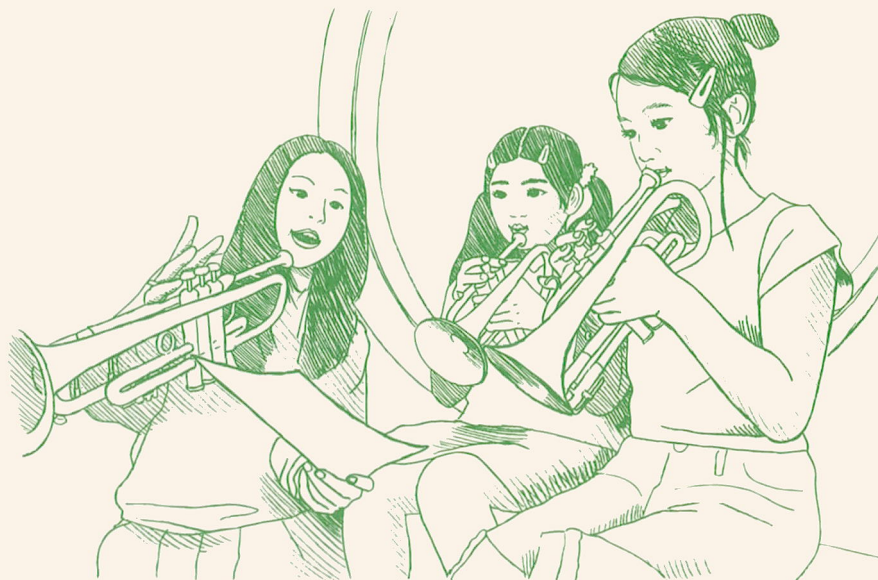
毎月2回ほどBスタジオで「わいわいスタジオ」を開催。ミニコンサートや手作り楽器のワークショップを行っています。ミニコンサートは、幼児でも楽しめるような構成にして、民族音楽や草笛など、さまざまな分野のさまざまな音楽を取り上げています。ワークショップでは、フィルムケースを使った“鳥笛”を作っています。ヒモをつけてぐるぐる回して音が出るもの、メロディーが吹けるものなどいくつかの種類があります。

音楽ロビーは 楽器がいっぱい

音楽ロビーには、手作りのものを含めてさまざまな楽器が置いてあります。マリンバ、コンガ、ピアノ、キーボード、タンバリン、ガンザ、アフリカタンタムなどの楽器のほかに、スタッフが身近な材料を使って手作りしたたくさんの楽器が置いてあります。バケツのタムタム、植木鉢のトーキングドラム、フィルムケースや空き缶・ペットボトルのシェーカーなどです。自由に利用できるので、親子で自発的に楽しんだり、スタッフの演奏に合わせて合奏して楽しめます。

ユニークな講座も

〔こどもの城〕が開館した1985年（昭和60年）から、邦楽の和太鼓（当時は、おはやし）と三味線、インドネシアの民族音楽ガムランの各講座はスタート。講座でもいろいろな国・地域の音楽を取り上げています。さらに、ダウン症児とその親を対象としたリトミックのコースもあります。



AV

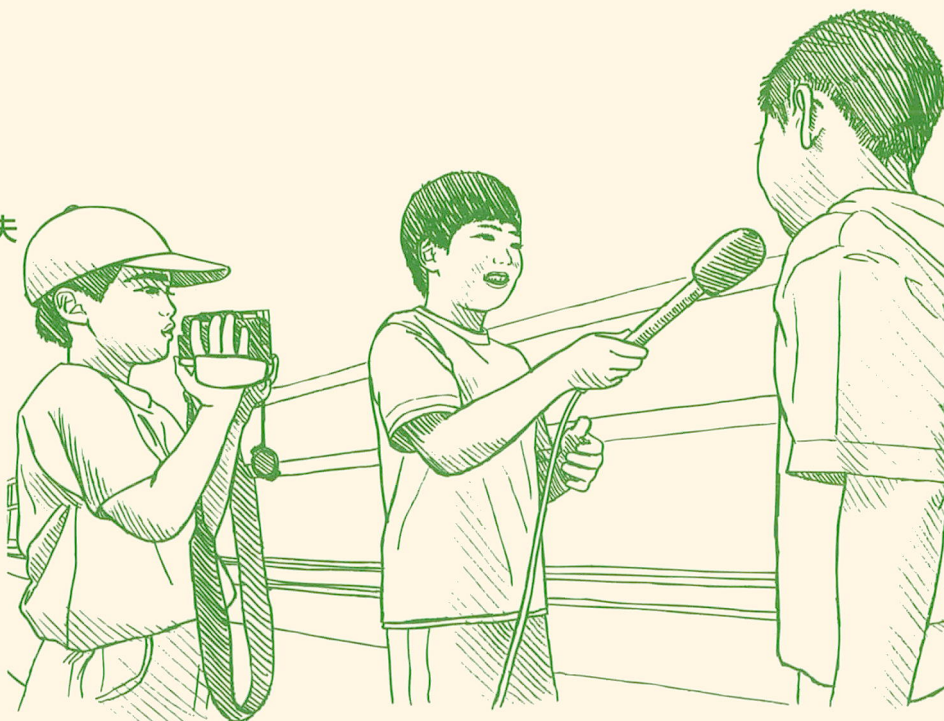
オーディオ
ビジュアル

映像作品を理解できるよう“見せ方”工夫 “動いて見える映像”作りに取り組む

映像は文字や絵画と同じように表現したり、情報を伝えたりするコミュニケーションの“道具”として、重要な位置を占めるようになり、文章と同じように映像を“読み書きする”力が注目されています。AV部門では〈みる〉〈つくる〉の両面から、子どもたちと一緒に映像の可能性を考えています。

〈みる〉活動の中心は、ビデオライブラリーでの視聴。教養・趣味・娯楽・スポーツ・アニメ……幅広いジャンルの映像ソフトが2万タイトル以上あり、自由に選んで視聴できます。また、いろいろな作品に触れてもらおうと《おもしろビデオ館》《こどもの城映画劇場》という上映会を行っています。どちらも、上映に際して簡単な作品紹介をするなど、より深く作品を理解できるように“見せ方”を工夫しています。

映像を〈つくる〉活動は《不思議な映像実験室》のタイトルで行っています。2枚の絵を描いて作る《ばたばたアニメをつくろう》、紙と筆記具だけで作る《くるくるアニメ》など、映画誕生以前の〈視覚玩具〉を題材に、“動いて見える映像”作りを体験するプログラム、ビデオカメラを使って遊ぶ《ビデオであそぼう》などがあります。

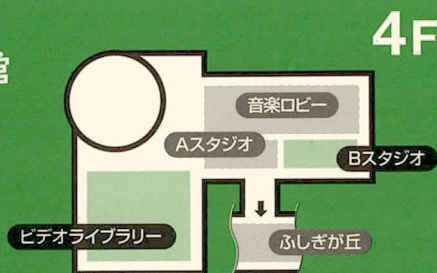


〈みる〉と〈つくる〉の両面から 〈映像〉の楽しさを伝えていく

〈みる〉と〈つくる〉の両面から映像を知り、映像に親しむ活動を行っています。〈つくる〉という能動的な体験をとおして、コミュニケーションの“道具”としての映像を理解し、より深く映像の楽しさやおもしろさを知ってもらおうというものです。

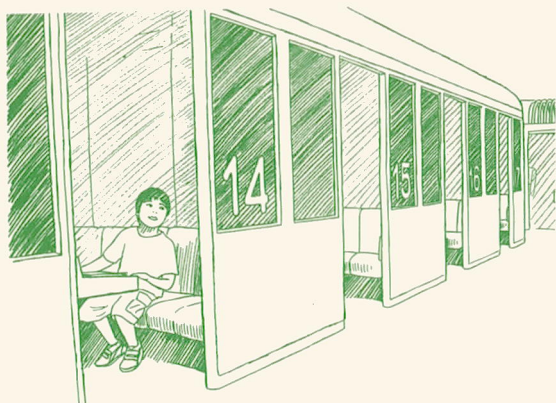
35のブースで98人が視聴可能 ビデオライブラリーはビデオの図書館

AV部門の活動は、4階のビデオライブラリーとBスタジオが中心。ビデオライブラリーは、35のブース（1～5人用の小部屋）で、合計98人が同時に視聴することができます。Bスタジオを中心に、映画やビデオの上映会、映像に親しむワークショップなどを開催。映像制作やデータ処理などを行う映像調整室、マスターコントロール室、AV資料室もあります。



オリジナル作品がある ビデオライブラリー ★

ビデオライブラリーでしか見ることができないオリジナル作品もあります。〔こどもの城〕の内外で行われた活動、青山劇場・青山円形劇場で行われた公演などを記録・編集したものです。キャンプなどの野外活動、音楽講座の発表会——など、たくさんのオリジナル作品が収録され、視聴できるようになっています。



映像記録の 作成・館内案内の映像送出 ★

活動の記録、館内案内テレビへ送出する映像など、さまざまな映像制作を行うのがマスターコントロール室と映像調整室。青山劇場・青山円形劇場の公演収録、館内外の活動記録、特別期間などのプロモーションビデオ、遊びのプログラムを演出する映像(システム)、利用案内のビデオなどを制作しています。

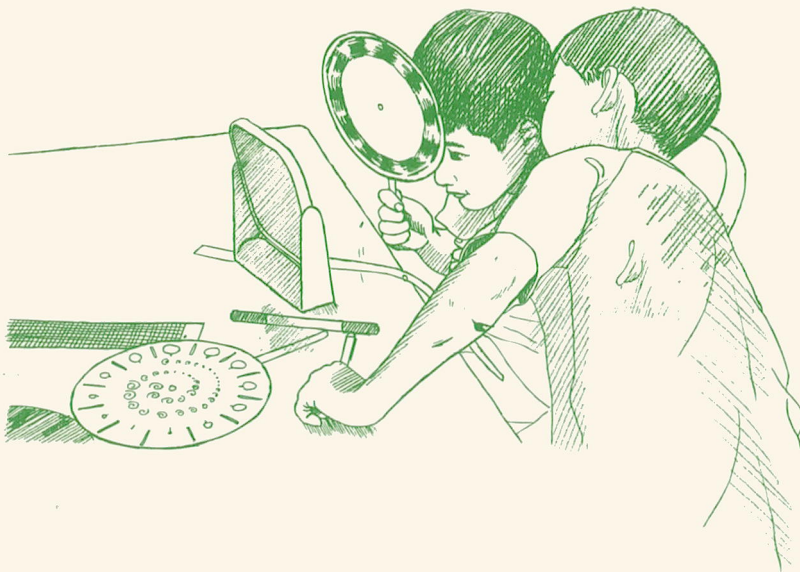
武藤行雄記念文庫 (フィルムライブラリー) ★

ビデオライブラリーとは別に、「武藤行雄記念文庫」というフィルムライブラリーがあります。善意の寄付をもとに作られたもので、世界的に高い評価を得ている、カナダ国立映画制作庁(NFBC)の短編アニメーション作品を中心に約150本が収録されています。ほとんどの作品に“言葉”がなく、動きや音(効果音など)だけで理解できるように作られていて、映画(映像)ならではの表現を楽しむことができます。

《不思議な映像実験室》で 映像楽しむワークショップ ★

動いて見える映像を作るワークショップ「不思議な映像実験室」を行っています。紙と筆記具があればできるものから、ビデオカメラやパソコン、映画用機材などを使うものまで、さまざまなプログラムがあります。

動いて見える映像の最小単位は、2枚の絵(写真)。素早く交互に見ると、動かないはずの絵が動いて見えます。この仕組みを紙と筆記具だけで体験する「くるくるアニメ」。2枚の絵をビデオカメラでコマ撮りして、画面で再生して見るのが「ばたばたアニメをつくろう」。セリフなどをアフレコすれば、より楽しい作品になります。このほか、映画発明以前に考案された視覚玩具(驚き盤、プラクシノスコープなど)を作って楽しむワークショップ。フィルムに直接絵を描くなどして作る「カメラレス(撮影カメラを使わない)」のアニメーション作りなども行っています。また、ビデオカメラの撮影を体験するプログラム——言葉の代わりに映像をつなげていくしりとり遊び、レポーターになって来館児・者へ突撃インタビューなど、映像をくつくるプログラムも積極的にを行っています。



保育

「保育」「研修」「一般来館児・者」の3つを柱に子育てを楽しくするプログラムを展開

保育事業、研修事業、一般来館児・者事業の3つを大きな柱に活動をしています。

保育事業には、2年間定期的・継続的に保育参加する4・5歳児の「幼児グループ」をベースに、多様な保育ニーズにこたえる会員制の「保育クラブ」の2～5歳児が随時加わる、異年齢混合のユニークな形の保育プログラムと、1歳児親子を対象に楽しく子育てをするための「親子教室」を行っています。

研修事業は、保育関係者を対象にした「保育セミナー」「子育て相談研修会（基礎編／応用編）」を開催するほか、子育てをめぐる情報を集めて発信する「子育て支援のニュースレター」を年3回発行しています。保育実践の場を持っていることを研修事業に生かしています。

〔こどもの城〕に遊びにきた親子（幼児）を主な対象とした一般来館児・者活動では、親子遊びを中心にした「よちよちクラブ」、親子で話し合いながら工作を楽しむ「親子工房」など、保育の視点を取り入れた親子プログラムを展開しています。

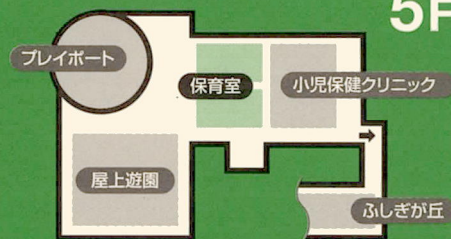
また、次世代育成を視野に入れて、小・中学生を対象にした「保育体験ボランティア」の活動も行っています。

“子育て支援”を視野に入れて新しい保育プログラムをめざす

少子化、核家族化、男女共同参画など、育児や保育を取り巻く環境は大きく変化し、多様化しています。このような環境のなかで、新しい保育プログラムのあり方を考えていこうと、子育て支援プログラムも視野に入れながら実践的な活動を展開しています。

2つの保育室を中心に活動 〔こどもの城〕全館を有効利用

保育部門の活動は、2つの保育室が中心。木のフロアの保育室には、マジックミラーで仕切られた観察室が設けられていて、保育の流れをさまざまに観察することができます。保育活動は〔こどもの城〕全館を使って行っています。研修事業も館内にある研修室を利用するなど、〔こどもの城〕という健全育成のための総合施設を有効に活用しています。



多様な保育ニーズに こたえる「保育クラブ」★

「保育クラブ」は2～5歳児を対象にした、多様な保育ニーズにこたえる会員制の子育て支援システム。保育プログラム（週何日かの定期保育、不定期保育、緊急保育など）、家族プログラム、情報プログラム（子育て相談など）の3つから選択して参加できるようになっています。

保育プログラムは、2歳児は「保育クラブ」のメンバーだけで保育を行っていますが、3～5歳児は定期的に保育参加している「幼児グループ」（4・5歳児）に「保育クラブ」のメンバーが加わる異年齢混合保育。毎日顔ぶれが変わるユニークな保育を実践しています。

家族プログラムは、同じ年齢の子どもを持つ家族同士の交流を目的に、親子遠足や親子運動遊びなどを実施。情報プログラムでは、定期的に情報を送付しているほか、気軽に子育てについてのアドバイスが受けられます。

2歳児の場合、集団に少しずつ慣れるようにしたい、思いっきり集団の中で遊ばせたい、母親の用事のため——などの理由で保育参加するケースが多く、価値観の多様化に伴い、生活スタイルや保育ニーズも多様になっています。

親子で楽しむ 「よちよちクラブ」★

1・2歳児の親子を対象にした、子育て中の親をサポートするプログラム（月1回程度土曜日）。歌遊び、手遊び、スキンシップ遊びなどの親子遊びのほか、参加者の負担にならない“作り物”遊びをしたり、参加した親子がゆったりとくつろいでおしゃべりを楽しむ交流タイムも設けています。



「母子教室」から 「親子教室」へ★

父親の子育て参加が増えていることから、1999年から「母子教室」を「親子教室」に名称と内容を改めました。父親も参加しやすいプログラムを増やし、“母親だけ”の子育てから“両親”で子育ての楽しさを体験できるように教室の内容を工夫しました。親子遊びのほかに、医学・心理発達にかんする講義、栄養についてのアドバイスなどを行います。ほかの親子との交流・情報交換の場もあり、“家族ぐるみ”で子育てを考える絶好の場になっています。

「子育て支援の ニュースレター」を年3回発行★

主な内容は、保育関係のセミナー・研修会の概要報告、行政や各地の保育所などが持っている情報、保育研究開発部で行っている親子遊びのプログラム紹介など。体裁はA4判8ページ、年3回発行。“子育て”にまつわる話題を幅広く取り上げています。

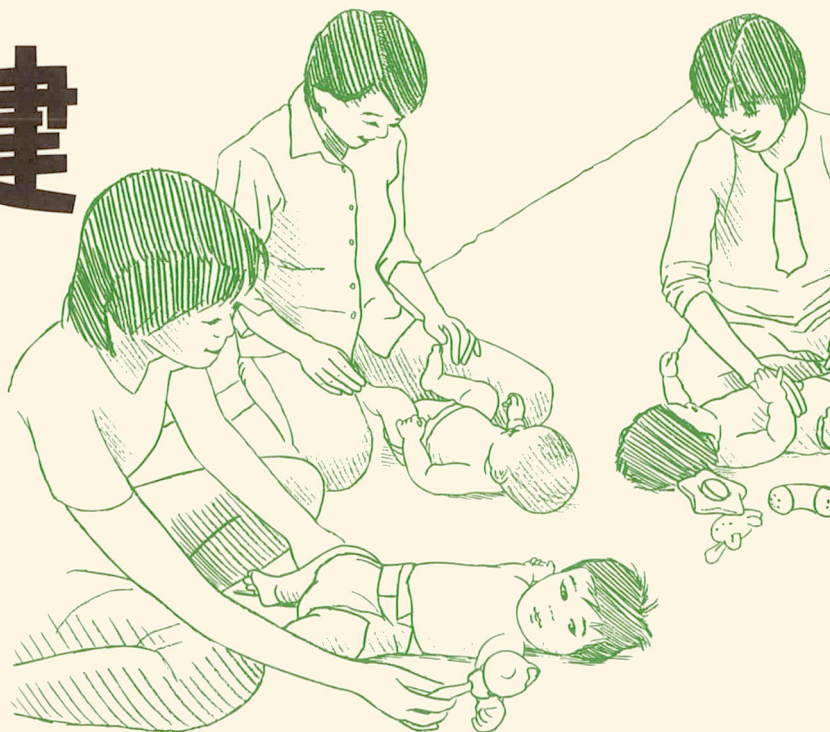


小児保健

“遊びの施設”のなかの小児保健クリニック [こどもの城]の経験生かし講習会など開催

「小児保健クリニック」は、子どもの心や体の発達、健康状態などについて、予約制で診療・相談に応じている小児科の診療所です。時間をとってじっくりと相談できること、小児科医師をはじめとして保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士などのスタッフがチームを組んで、心身両面から対応しているのが大きな特色です。[こどもの城]という“遊びの施設”の中にあるので、利用しやすいという利点もあります。

子育て支援を目的とした活動は、グループで行う講座などが中心になります。子育ての大きな支えになっている現代版「井戸端会議」といえる「赤ちゃんサロン」、体育部門と行っている「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」や「マタニティ・スイミング」のほか、「親子のほっとタイム」「季節の離乳食」など、乳児を持つ親を対象とした小グループの講習会もあります。日常の活動で得られた経験をもとに、子育て支援に携わる専門家を対象にした研修活動も行っています。さらに、さまざまな実践の結果をまとめる研究も活動の大きな柱です。

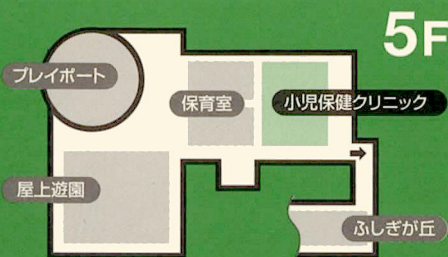


心や体の健康の問題に取り組む さまざまな形で子育て支援

子どもの心や体の健康の問題に取り組むと同時に、子育てを支援するさまざまな活動を展開しています。「小児保健クリニック」での診療・相談活動、グループで行う講座などの活動、専門職を対象にした研修・啓発活動、研究活動の4つが活動の柱です。

小児保健クリニックで診療・相談 他部門と連携し、多彩に活動展開

子どもとその家族を個別に援助する活動の中心は、5階の「小児保健クリニック」。診察室、相談室、保健室、心理相談のためのプレイルームがあり、心や体のいろいろな問題について総合的な診療・相談を行っています。グループを対象とした活動では[こどもの城]の他部門と連携して、体育室やプールなどの施設・設備も有効に活用して多彩に活動を展開しています。



“おしゃべり”楽しむ 「赤ちゃんサロン」



妊婦と3か月から1歳6か月までの子どもとその親を対象にした、現代版“井戸端会議”。核家族化し、地域での結びつきが少なくなった現在、親同士で日ごろの不安や疑問を話し合ったり、友だちを作ったりできる場になっています。参加親子は、月齢ごとのグループに分かれて輪になってカーペットの上に座ります。赤ちゃんをおむつ一つにして、目が届く範囲で遊ばせながら、親たちは“おしゃべり”を楽しみます。

小児保健部のスタッフ（小児科医師、保健師、管理栄養士、臨床心理士）が加わり、お母さんたちの話の引き出し役となって、会話がはずむように進行します。ときには、子育てについてアドバイスします。

“しゃべる”ことが、気持ちを楽にさせる重要なポイント。同じように子育てをしている人がいて、心配事や悩みをかかえていることを知るだけでも、子育て中のお母さんには心強い味方になります。親子の自然な交流を大切にしています。

経験を生かして 「子育て支援講習会」など



小児保健クリニックでの診療・相談活動、グループで行う子育て支援活動の経験を生かして、児童館、保健センター、保育所、学校などの子育て支援に携わる専門職を対象に、0～2歳の心と体の健康にかかわる実際的な情報を提供する「子育て支援講習会」、小児保健の最新の話題を取り上げる「小児保健セミナー」などを開催しています。

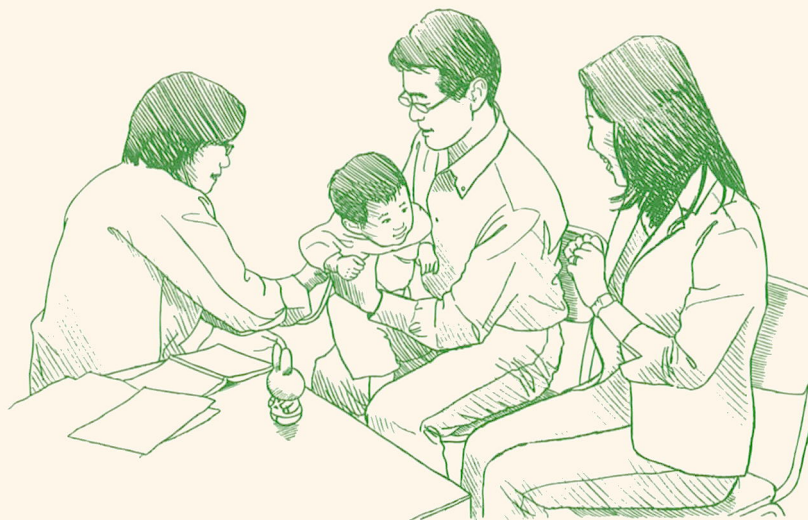


妊娠したときから お手伝い



体育部門と一緒に「マタニティ・スイミング」の講座を運営したり、妊娠中を楽しく過ごして出産してもらおうと、劇場部門と共同で「マタニティ・コンサート」を開催したり、妊娠したときから、広い意味での“子育て支援”をしています。

赤ちゃんを持つ親向けに、小グループで行う「親子のほっとタイム」「季節の離乳食」もあります。スタッフの話を聞いたり親同士で情報を交換することで、子育てへの自信を持ってもらおうというプログラムです。

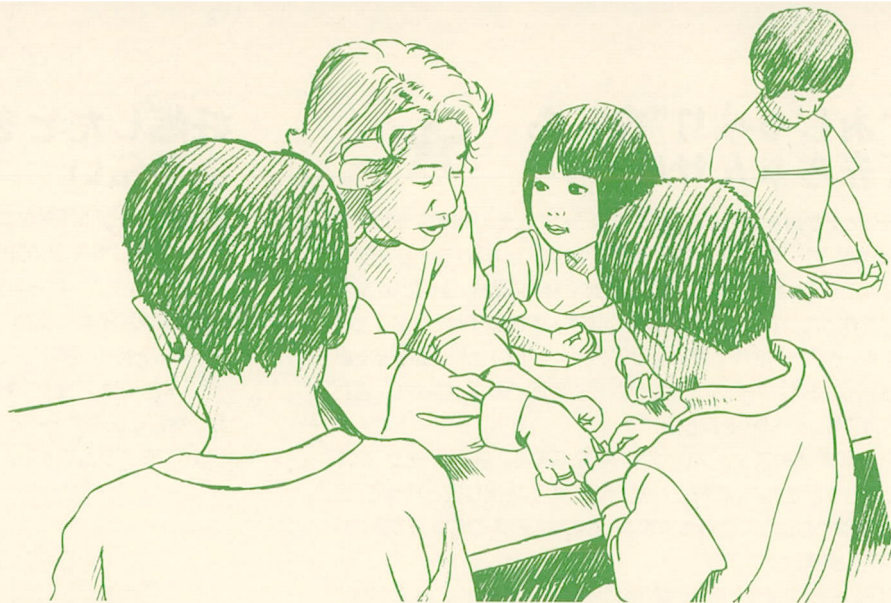


総合施設の機能を生かし 「健康スポーツ教室（太りすぎクラス）」



太りすぎの子どもを対象としたこの講座は、生活習慣病予防のための健康作りが目的。医学・栄養面などは小児保健部門、運動は体育部門——それぞれの専門スタッフが連携して指導にあっています。

企画 研修



〔こどもの城〕全体の調整と ボランティアの育成など

〔こどもの城〕を円滑に運営していくために「こども活動エリア」の活動を中心にプログラム全体の調整、外部団体との窓口となって連絡・調整・提携事業を行う——などの企画業務、ボランティアの養成・コーディネートや実習生の受け入れなどを行う研修業務の2つを担当しています。

全国で〈動くこどもの城〉★

国の助成を受けて行っている〈動くこどもの城〉（児童館巡回支援活動等事業）は、〔こどもの城〕と全国の児童館をつなぐプログラム。〔こどもの城〕の遊びプログラムを各地の子どもたちに体験してもらうと同時に、児童厚生員などにプログラム作り・運営の経験を伝える活動です。企画研修部門が全体をコーディネートしています。

「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」などの開催と合わせて、全国の児童館の“センター的役割”を果たす活動の核となっています。

広報

〔こどもの城〕の活動を 多くの人に伝える

全国の児童館や近隣の保育所・幼稚園・小学校、町会などに配布している「こどもの城ニュース」などの刊行物の編集・発行、マスコミ・ミニコミなどのメディアへの情報提供、取材の対応、PR活動など〔こどもの城〕と〔こどもの城〕の外とを結ぶ仕事をしています。

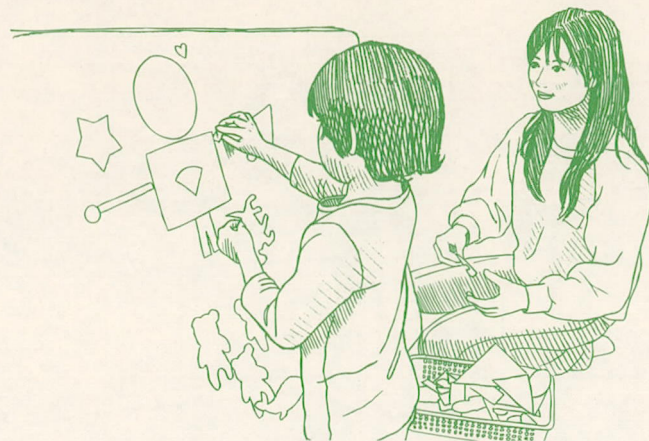
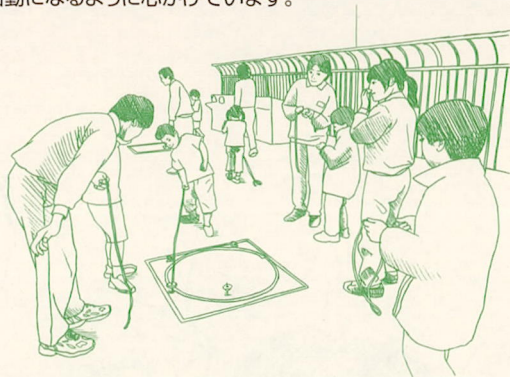


約400人のボランティアを コーディネイト ★

〔こどもの城〕では、学生・社会人を中心とした青年ボランティアと社会経験の豊富な女性を中心とした女性ボランティア、計400人ほどが登録して活動を続けています。

一般来館児・者を対象とする主なボランティア活動は、“紙芝居”や“人形劇”などの表現活動プログラム、出会った子どもたちと仲間作りの輪を広げていく自由遊びなどがあります。また、講座・クラブの運営補助や子どもたちのグループリーダーとしても活躍しています。

たくさんのボランティアが活動しやすいように、〔こどもの城〕のスタッフとの間になって、コーディネイトすることが大切になります。各部門と連携をとりながら、ボランティアの成長を見守り、〔こどもの城〕にとっても、ボランティアにとっても有意義な活動になるように心がけています。



実習生を受け入れ ★

〔こどもの城〕の活動を理解したうえで、ボランティア活動をしてもらおうと、「ボランティア講習会」を開催しているほか、ボランティア・リーダーをめざしている高校生のクラブ「L.I.T.=Leader In Training」の運営も行っています。

〔こどもの城〕で社会福祉や保育、ボランティア体験などの実習を希望する学生の受け入れなど、健全育成活動で重要な役割を担っている“人”を生かす活動もしています。

「こどもの城ニュース」 などを編集・発行 ★

〔こどもの城〕は何をするところか、何をしようとしているのか、多くの人々に理解してもらうことが大切です。そのために、「こどもの城ニュース」「事業年報」などの定期刊行物を発行。館内に掲示している「こどもの城写真ニュース」も毎月作成しています。

夏休みなどの特別期間には、ちらしやポスターを作成して各所に配布・掲示しています。

英語版のちらしも作成 ★

東京の都心部にある〔こどもの城〕は、たくさんの在日外国人が利用しています。そのため、ちらしなども英語版のものを作成しています。

たくさんの メディアが取材に ★

多くの人に〔こどもの城〕を知ってもらうために、積極的にメディアに情報を提供しています。存在を知ってもらうことが、〔こどもの城〕理解の第一歩と考えるからです。

総合案内

みんなで楽しく「こどもの城」を利用してもらうために

たくさんの“遊び”がある「こども活動エリア」の案内、講座・クラブや「こどもの城」の活動を支える「こどもの城友の会」の受け付けなど、「こどもの城」を快適に利用していただくためのサポートをしています。忘れ物をはじめ、さまざまなお問い合わせの窓口にもなっています。

グループ活動では、利用グループと活動担当部門の間でプログラム内容や日程などを調整しています。



劇場

青山劇場・青山円形劇場——
2つの劇場で舞台芸術にふれる

「青山劇場」は、1,200人収容の大劇場で、全床スライド式の2面主舞台をもち、舞台機構、音響、照明はコンピュータで制御しています。

「青山円形劇場」は、日本で最初の完全円形というユニークな劇場。舞台と客席を自由に設定することができ、他に例のない劇場空間が作り出せます。最大定員376人。

青山劇場 <http://www.aoyama.org/>



こどもの城友の会★

〔こどもの城〕の活動をより多くの人に理解していただき、支援をお願いするために「こどもの城友の会」があります。家族単位で入会して、〔こどもの城〕を利用していただいて、多くの人に“遊び”の大切さやおもしろさを伝えてほしいと願って運営しています。

「こどもの城ニュース」「友の会通信」など各種案内の送付や優待などの特典もあります。

利用者サービス

研修室・宿泊施設・駐車場・レストラン・売店——サービス部門も充実

研修室などは、児童の福祉・文化の向上をめざす人々のために設けられたものです。保育や小児保健、企画研修など〔こどもの城〕の各部門が主催するセミナーや研修会・講習会で使用するほか、一般の人でも利用することができます。

売店では、厳選した子ども向けの玩具や〔こどもの城〕オリジナルグッズを販売しています。

感動を与える演目を上演★

2つの劇場がめざしているものは、「今を生きるすべての人に、“なにか”を捧げることができる劇場」。年齢や性別にかかわらず楽しく、感動を与えることができる演目を上演したいと考えています。

“児童福祉文化財” 選定作品も生み出される★

劇場運営のスタイルには、自主公演と貸し劇場の2つがあります。どちらの場合も企画を吟味し、〔こどもの城〕の劇場にふさわしい演目を選んで上演しています。

さらに青山円形劇場の場合は、小劇場という空間の親密性と完全円形という独特な空間を生かした演目も積極的に取り上げています。

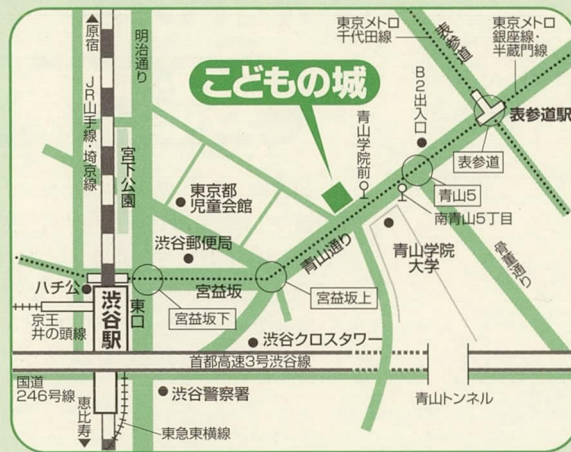
キリン福祉財団と共催の青山円形劇場公演「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ」シリーズ（1989年～）は、社会保障審議会推薦児童福祉文化財に選定されるなど、高い評価を得ています。また、「青山バレエフェスティバル」（1986～2000年／青山劇場）、「第17回ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催」（1988年／青山劇場）、「青山演劇フェスティバル」（1987～2001年／青山円形劇場）などから、たくさんの方の若い才能が育っていきました。



青少年など対象に ワークショップも開催★

舞台芸術への興味・関心を高めてもらおうと、出演者（団体）の協力を得て「青山パフォーミング・アーツ・セミナー（APAS）」を開催しています。“身体を使った表現”をテーマに、青少年などを対象にワークショップを行っています。

あわせて、指導者向けのフォーラムやワークショップも開催し、開かれた劇場をめざして活動しています。



開館時間

土・日曜日・祝日、学校の季節休み — 10:00～17:30
 平日 — 12:30～17:30

入館料

こども (3歳以上18歳未満) — 400円
 おとな — 500円

月曜日休館

※月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は翌日が休館日となります。また、学校の季節休み等には休館日を変更することがあります。

※20人以上の団体は、こども320円、おとな400円です。事前にご連絡ください。

●渋谷駅から徒歩10分 (東口/宮益坂側)

JR山手線・埼京線/東急東横線・田園都市線/京王井の頭線/
 東京メトロ銀座線・半蔵門線

※渋谷駅(東口バスターミナル)から都営バスをご利用いただけます。
 新橋駅北口行(渋88)「青山学院前」下車すぐ

●表参道駅から徒歩8分 (B2出口)

東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線

●地下駐車場 (有料・80台収容・車高制限2m)

こどもの城

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

Tel. 03-3797-5666

<http://www.kodomonono-shiro.or.jp/>